

2022年7月15日

サンスター、25万人の歯と医療費を分析した論文が 日本歯科医療管理学会優秀賞を受賞 ～「歯の本数が多く、かみ合わせが良いほど医療費が低い」～

2022年6月20日(土)、サンスターグループ(以下サンスター)による25万人の歯と医療費を分析した論文が、岩手県盛岡市で開催された第63回日本歯科医療管理学会総会・学術大会において、日本歯科医療管理学会賞(教育・研究機関部門)優秀賞を受賞しました。



左:サンスター 研究開発統括部 石川 美希 右:一般社団法人日本歯科医療管理学会 理事長 尾崎 哲則氏

【研究の概要】

本研究では、複数の企業・団体の20才から74才の労働者約25万人の定期健康診断結果(匿名加工済み情報)と医療機関の診療情報(診療報酬明細書)データを基に、労働者の歯の本数、上下の歯のかみ合わせと医科医療費の関係を検証しました。歯の本数の多さに加えて、咬合状態が良好であるほど医科医療費が少ないことが確認されました。高齢者だけでなく、働く若い年代のうちから歯や咬合の状態をよく保ち、上下の歯で食べ物をしっかりかめる口を維持し続けることが、口腔の健康のみならず、全身の健康維持においても重要であると考えられます。

研究の表題:「レセプト情報を用いた口腔状態と医科医療費に関する検討」

石川美希、安田多賀子、高世尚子(サンスター株式会社)

掲載された学会誌:日本歯科医療管理学会雑誌第56巻 第1号 32-41頁 2021年6月30日発刊

プレスリリース: <https://www.sunstar.com/jp/newsroom/news/20210708/>

【一般社団法人日本歯科医療管理学会 理事長 尾崎 哲則氏 コメント】

本学会は、歯科医療に関連した諸科学を広く導入研究することによって、安全・安心・信頼の歯科医療を地域で提供することを目指して、医療安全や地域での多職種連携を図ることを目的として活動しています。今回、学会賞を受賞した研究は、今後の地域歯科医療を展開するにあたり、口腔保健状態と医科医療費用との関連を示す重要なデータです。近年、歯科医療界の周辺環境は大きく変化しており、「地域連携」はもちろんのこと、IT技術の進化に伴う「医療情報管理」も大きな課題になると思われます。本学会としては、これらの分野にも着目し、学問をいかにして社会へ応用できるか、引き続き検討を続けていきます。

【日本歯科医療管理学会賞について】

日本歯科医療管理学会賞は、一般財団法人日本歯科医療管理学会が、歯科医療管理の分野において優れた業績があった会員を表彰することで学会を活性化させ、学会と歯科医療の発展に資することを目的に設立された賞で、教育・研究機関部門と一般臨床医部門があります。

今後もサンスターでは、人々の健康寿命の延伸に貢献することを目指した製品、情報、サービスを提供するとともに、口腔が全身の健康に及ぼす影響、また定期的に歯科健診を受けることの重要性についても、調査研究に裏付けられたデータによって啓発活動を行ってまいります。

【サンスターグループについて】

サンスターグループは、持株会社サンスターSA(スイス・エトワ)を中心に、オーラルケア、健康食品、化粧品など消費者向けの製品・サービスをグローバルに統括するサンスター・スイスSA(スイス)と、自動車や建築向けの接着剤・シーリング材、オートバイや自動車向け金属加工部品などの産業向け製品・サービスをグローバルに統括するサンスター・シンガポール Pte.Ltd.(シンガポール)を中核会社とする企業グループです。

100年 mouth 100年 health

人生 100 年時代、サンスターが目指すのは、お口の健康を起点とした、全身の健康と豊かな人生。毎日習慣として行う歯みがきなどのオーラルケアは、お口の健康を守り、そして全身の健康を守ることにもつながっています。100年食べ、100年しゃべり、笑う。一人ひとり、自分らしく輝いた人生、豊かな人生を送るためにも、お口のケアを大切にしていきたいと考えています。今後もお口の健康を起点としながら全身の健康に寄与する情報・サービス・製品をお届けすることで、人々の健康寿命の延伸に寄与することを目指していきます。

